

『血のペナルティ』カリン・スローター 著 鈴木美朋 訳

呼吸を忘れて没頭する、**窒息寸前のおもしろさ!**
ミステリー界の新女王が描く、
ジェットコースター・サスペンス!

血の海と切断された薬指を残し、麻薬捜査課の元刑事が連れ去られた。被害者の娘とパートナーを組む**ジョージア州捜査局特別捜査官ウィル・トレント**は、すぐさまある汚職事件との関連を疑う。4年前、元刑事の部下6名が麻薬を転売し大金を横領したかどで刑務所送りになったが、**その上司だった彼女だけは無罪放免となったのだ**。当時捜査を担当したウィルは証拠が隠滅されたと確信していた。これは報復なのか——。ウィルは再び調査に乗りだすが……。

『プリティ・ガールズ』、『ハンティング』では目を覆いたくなるほど陰湿で凄惨な事件を描き、

旋風を巻き起こしたカリン・スローター。続く『サイレント』では田舎町ならではの密な人間関係、小さな警察組織の闇を苦々しく描き、「警察小説」の新境地を開いた。だがスローター、とりわけ〈ウィル・トレント〉シリーズにはまる最大の理由は、息詰まるほど濃密に描かれる、登場人物たちの魅力だろう。

主人公の捜査官ウィルはマッチョとは正反対。頭脳明晰で優秀、三つ揃いのスーツに身を包み、“ドーナツとコーヒーと筋肉”の刑事の世界では浮いている変わり者。実は彼には秘密があり、読み書き障害（ディスレクシア）を抱えている。

ウィルがいかに秘密を保ちながら捜査を進めるか、そしてこの事実と向き合っていくかは毎回非常に興味深い。そしてウィルのパートナーで姉御肌の**フェイス**。今回拉致された元刑事は、実はフェイスの母親である。フェイスは母親の身の潔白を信じ、事件に巻き込まれただけだと思っているが、ウィルはフェイスの母親をクロだと思っている——。はたして真相は？

そして忘れてならないのが、ウィルの妻（悪妻?）で幼なじみの**アンジー**と、ウィルが灰かに惹かれる**サラ**。アンジーはウィルと同じ児童養護施設育ちで、二人の生き立ちも作中で語られる（アンジーの隠れファンは多いと見ている）。

以前検死官をしていたサラは、カリン・スローターの代表作とも言える〈グラント郡〉シリーズの主人公だが、そのシリーズと〈ウィルトレント〉シリーズがクロスオーバーした『ハンティング』で二人は出会った。こちらの人間模様も見逃せない。

本シリーズは、読後に作品についてあれこれ話したいと強く思わせるものがある。多くを語りすぎないうちに幕を引くが、ぜひ実際に手に取ってその魅力にはまっていただきたい。シリーズの次作“CRIMINAL”は、2018年6月頃に刊行を予定している。こちらではウィルの出生の謎が明らかになるとの噂。乞うご期待!

(担当編集 N)



〈特別捜査官ウィル・トレント〉シリーズ

